

卵殻パウダーで配合紙

サムライトレ、産廃利活用

【さいたま】サムライトレーディング（埼玉県桶川市、桜井裕也社長、048・789・0808）は、卵殻パウダーを10～30％程度配合した紙「CaMISHELL（カミシェル）」を開発した。同紙を使った製品を新生紙パルプ商事（東京都千代田区）や三菱製紙と共同開発し、両社で販売。脱プラスチックが潮流となり紙への移行が進む中で、主に産業廃棄物として処理される卵殻をパルプや填料の代替として利活用する。

配合ですみ分け

いる。1平方メートルあたり160gの名刺用紙のほかに、手提げ袋、パッケージ製紙はカミシエルの商標などとゴママークを共同使用する。名刺用紙は両社が取り扱うが、卵殻パウダーの配合比ですみ分けする予定。名刺の場合、しっかりと紙質の紙を使うケ

新生紙パルプ商事はパルプの一部代替として卵殻を使う。最低でも卵殻10％の配合を目標として

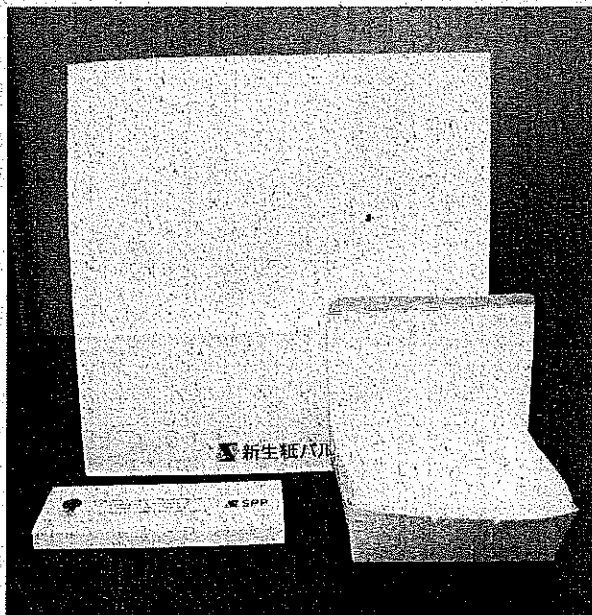
名刺・手提げ袋など製品化

指す。現在は包装紙などの開発を進めている。将来は全ての紙に対応するとしている。

填料の代替

三菱製紙は紙の不透明

度などの機能を調整する主体とし、60gの販売を目的で添加する無機顔料である填料の代替として卵殻を利用する。填料には卵殻の主成分と同じ炭酸カルシウムなどが使われている。同社は1平方メートルあたり170gの名刺用紙を開発中で、4月をめどに先行してテスト販売する。初年度は名刺を26万ト排出



卵殻パウダーを配合した紙「CaMISHELL（カミシェル）」

国内の割卵工場などから排出される卵殻は年間約26万トと言われている。一部は肥料などに再利用されるが、ほとんどは産業廃棄物として処理される。サムライトレーディングは卵殻を処理して供給する。桜井社長は「卵殻は産業廃棄物のため、お金を出して二酸化炭素（CO₂）を出すことになる」と警鐘を鳴らす。同社は卵殻を再活用する取り組みで1月、埼玉県が主催する第9回「渋沢栄一ビジネス大賞」の大賞を受賞した。